

過去の主な噴火活動の記録

伊豆大島	684年	噴火
	856年	
	1112年	
	1338年	三原山東山腹に噴石丘、北西麓に火口生成、溶岩流
	1421年	大島南部に火口生成、溶岩流。一部の溶岩はカルデラ北東側に越流
	1552年	カルデラを越流した溶岩は北東に流れ、海岸に達す
	1684年	カルデラを越流した溶岩は東部海岸にまで流出
	1777～79年	伊豆大島史上最大の噴火。多量の溶岩を流出。スコリア（気泡を含む軽い火山岩）全島に降下。噴出物総量6億5千万t
	1912～14年	噴石活動、溶岩流出、噴出物総量7460万t
	1950～51年	噴石丘形成、溶岩流がカルデラ床に流下、噴出物総量5880万t
1986年	夏頃から微小地震。11月15日噴火、溶岩流がカルデラ床に流下。21日カルデラ床で割れ目噴火、溶岩噴泉、溶岩流。外輪山外側で割れ目噴火、溶岩流下。島民1万人島外に避難。	
新島	886年	房総半島で黒煙、鳴響、雷鳴を認めた。地震頻発、降灰砂多く牛馬倒死多数。
神津島	832年	溶岩が海に流入、農作物被害
	838年	天上山生成。降灰、溶岩海に流入
三宅島	1643年	溶岩は海中へ約1km流出。阿古村（現在位置と異なる）は全村焼失。旧坪田村は風下のため火山灰、焼石が多数降り、人家、畑を埋めた。
	1712年	山麓（？）で噴火、溶岩が海中にまで流出。阿古村では泥水の噴出で多くの家屋が埋没。牛馬死亡。
	1763年	雄山山頂噴火、阿古村薄木でも噴火。
	1811年	北側山腹噴火
	1835年	西山腹の笠地付近で噴火、噴石、溶岩流
	1874年	神着村南方の山中で噴火。溶岩は北方に流れ海に5000m ² の新しい陸地をつくる。人家45戸が溶岩に埋没。死者1
	1940年	7月12日北東山腹より噴火、溶岩流出。14日から山頂噴火。多量の火山灰、火山弾放出。死者11、負傷20、牛の被害35、全壊、焼失家屋24、その他被害大
	1962年	8月24日北東山腹の海拔200～400m辺から噴火。多数の火孔から溶岩を海中にまで流出。噴火は30時間で終了したが、終了後から有感地震頻発。焼失家屋5棟、山林耕地に被害。 (前6,625人 後5,629人(996))
	1983年	10月3日南西山腹に生じた割れ目から噴火。溶岩噴泉、溶岩流。島の南部でマグマ水蒸気爆発が発生し、多量の岩塊が周辺に落下。溶岩流で阿古地区の住宅の埋没・焼失約400棟。山林耕地等にも被害。総噴出量2000万t。 (前4,228人 後4,167人(61))
2000年	7月8日山頂からの噴火を皮切りに、数度の噴火。現在噴煙を上げ、活動中。 (避難前3,829人)	
八丈島	1487～1606年	1487年、1518年、1522年、1605年、1606年の5回の噴火記録がある。1606年の噴火では、八丈島付近で海底噴火、火山島生成。位置及びその後の状況は不明であるが、大規模ではなかったらしい。
青ヶ島	1783年	3月26日砂を噴出、4月10日地震のあと火口原に火孔生成、赤熱噴石を噴き上げ最大約2m、噴石島中に降り61戸焼失、死者7人、翌11日砂や泥土を噴出、15日火炎、黒煙、噴石は火口原を埋め更に高さ100m余りの二つの噴石丘を形成。
	1785年	4月18日火口原から噴火を始め噴煙、赤熱噴石、泥土噴出、5月頃まで続く。当時327人の居住者のうち130～140人が死亡と推定され、残りは八丈島に避難し、以後50余年無人島となる。
伊豆鳥島	1902年	中央火山丘爆砕消失、全島民125人死亡
	1939年	噴煙・鳴動・噴石丘生成、溶岩流出。
	2002年	8月11日・12日硫黄山山頂火口から噴煙が連続的に噴出。